

### 教員研修留学生の修了式が行われました。

3月18日、平成26年度教員研修留学生として1年間、教育学研究科で学んだエルサルバドル出身のMelvin Orellana（メルヴィン）さん、パナマ出身のHazel Castillo（ヘーゼル）さんの修了式が行われました。高木教育学部副学部長から修了証を授与され、指導教員の井嶋博教授、山崎由可里教授にご同席いただき、1年間の和歌山大学での留学を振り返りました。

メルヴィンさんは「初めて海外で学ぶ機会を得て、人生で最も素晴らしい時間を過ごすことができた。エルサルバドルには『暑い』か『とても暑い』の二つの季節しかないが、日本には美しい四季がある。景色が美しく、温泉が多い和歌山が大好きになった。」、ヘーゼルさんは「日本の人々の思いやり、相手を敬う気持ち、人を助けようとする姿勢がとても印象的だった。今から和食、特にお寿司が恋しい。」と話しました。来日当初は日本語が全くわからず、たいへん苦勞をされたことも思い出されていました。

もともと教員のお二人は、和歌山でも小学校や中学校、特別支援学校で自分の国の紹介をし、子どもたちに世界に目を向けるきっかけを作ってくれました。また、学内でも「多言語サロン」のスペイン語講師として、学生に楽しく、やる気を引き出しながら教え、様々な交流で貢献していただきました。

国に帰ったら、メルヴィンさんは「日本での経験を活かし、自分の生徒を教えるだけでなく、国としての高校レベルの教育向上に取り組みたい。勤務校に青年海外協力隊員が配属されているので、日本語を教えてもらいながら勉強を続けたい。」、ヘーゼルさんは「日本で学んだ特別支援教育を参考に、障害者職業センターのような取組を導入していきたい。」と抱負を語ってくれました。

お二人の今後の益々のご活躍をお祈りしています。

2015年3月18日

国際教育研究センター



左から山崎教授、ヘーゼルさん、メルヴィンさん、井嶋教授



修了証を手に笑顔のメルヴィンさんとヘーゼルさん